

【徳島県板野町】

校務DX計画

1. 現状と課題

令和6年12月26日に文部科学省が公表している「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」（速報値）による自己点検の結果、板野町の学校では、校務支援システムへ新入学児童生徒の名簿情報を登録する際に、手入力ではなくデジタルデータを処理して入力することができている。

また、教職員間の情報共有や連絡手段として、クラウドサービスの取り入れや、教職員に校務用の個人メールアドレスが付与されていることもあり、メールやクラウドサービスなどを用いた教育委員会と学校間のデータ共有が浸透しつつある。

一方で、例外的に必要と考えられる業務以外の日常業務にFAXを使用していることや、業務で押印が必要な学校が半数以上あり、校務DXの積極的な推進に向け、見直していくことが課題である。

2. 校務DXを推進するための課題解決

その場に人がいないと対応できない通信手段であるFAXの使用は、確認に時間がかかることや、業務の実施場所が制限されることから、これまでのFAXを利用したやりとりを原則として廃止し、メールやクラウドサービスなどを積極的に活用していくとともに、押印が必要な業務の見直しにより、ペーパーレス化を進めることで、教職員の柔軟な働き方改革の推進と校務の効率化を図っていく。

また、教育情報セキュリティポリシーについて、現在の状況に即した内容に改定を行うことで、校務DX等を推進するために相応しいセキュリティレベルを確保することにより、新たな時代に対応した基盤を構築する。

3. システムの整備

令和3年4月より徳島県内全公立小中学校で、徳島県公立小中学校「学校業務支援システム」を運用している。学校業務支援システムは、教職員の円滑な情報共有を行うためのグループウェアと、児童生徒の情報や学校の予定等を管理する統合型校務支援システムから成る。グループウェアにはメールや出退勤記録、掲示板、回覧板等の機能があり、統合型校務支援システムには通知表や指導要録、出席簿、時間割管理、保健（健康診断等）、学校予定管理（学校行事や教職員の出張・休暇の管理）等の機能が備わっている。統合型校務支援システムとグループウェアの活用により、公簿の電子化や、各学校に送付されてきた連絡の教職員への周知や回答に、グループウェア内の掲示板や回覧板に転送することを推進することで業務効率化やペーパーレス化を図っていく。

令和7年度末に、学校業務支援システムの運用保守の期間が終了するため、令和8年度以降も校務DXを推進するためにシステムへの在り方についても検討していく。

また、学校と保護者間の連絡手段についても、令和7年度より統一された連絡網機能システムを導入することにより、学校間での連携や、保護者とのやり取りをスムーズにすることにより、校務DXを推進していく。